

「雨滴石を穿つ」そして**「和顔施」** ～努力と温かな心～

先日の卒業式で、今後の社会は急激な変化を遂げる先行き不透明な社会だと話しました。また、人工知能AIがあらゆる分野で存在感を増してくるとも話しました。そして、AIにできない人間だけにできることとして、問いを立てること。**何か大きくて少し難しい問いを立てて、それを自分のあり方の一つの軸にして考えていって欲しい**と話し、その例としてSDGs (Sustainable Development Goals) **「持続可能な開発目標」**を紹介しました。今、1年生の家庭科ではSDGsについて学び、17の分野169のターゲットについて提案を考えていて、とても嬉しく思いました。課題解決型学習は本校の柱です。皆さんに、何か大きくて少し難しい問いを立てて考えることを実践して欲しいと思っています。それが皆さんを、より高みに引き上げてくれるはずです。

さて、社会の変化ということで頭に浮かぶのは「進化論」で有名なイギリスの自然科学者**ダーウイン**の言葉です。**「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である」**。時代の変化にうまく対応することで人類は進化してきました。そういう**変化できる柔軟さ、しなやかな対応力が大事**です。私も国語科の教員として、国語という教科を通じて**「柔軟な思考のできる人」・「柔軟な感性を持っている人」**を育てることを目指してきました。

柔軟であることの重要性は、古代中国の思想家**老子**も**「上善如水＝上善は水の如し」**という言葉で表現しています。上善は、理想的な生き方。それは水の性質に似ているという意味です。**「水は万円の器に従う」**と言うように、水は方＝四角い入れ物に入れば四角に、丸い入れ物に入れば丸くと柔軟に対応し、また**「水は低きに流れる」**というように、低い、人が嫌がる所に流れていく謙虚さをもっています。更に、水は万物に恵みを与えます。こういう点が理想的な生き方に例えられています。皆さんにも是非、**柔軟であって欲しい**と思いますが、**柔軟であるためには、やはり常に「学び続ける」ことが必要**です。**「学び続ける力」こそ「学力」**だと肝に銘じてもらえたらと思います。

そして、水は大きな力を持っています。私の好きな**宮本輝**の『**水のかたち**』という小説に彫刻家**ロダンの「石に一滴一滴と喰い込む水の、遅い静かな力を持たねばなりません」**という言葉が引用されていますが、ことわざで言うと**「雨滴石を穿つ」**です。雨滴は雨だれ。古い神社などに見られますが、雨だれが不断に降り落ちることで、何年もかかってあの堅固な石に穴を穿つ力さえ有するという意味です。**「継続は力なり」**という努力の大切さを示す言葉と同意です。玄関前の甲子園出場記念碑には**「不撓の努力」**とあります。**「努力の上に花が咲く」**です。**努力が継続できる人であって下さい**。

皆さんの前で話すのは今日が最後なので、私の願いを託す言葉を贈ります。**「和顔施」**。37年前、教員生活スタートの年に出会った仏教語です。「和」は平和の和、和やかなという意味です。「顔施」は「顔」と「施す」。つまり、和やかな笑顔が人に施す(与える)恩恵はとても大きいという意味です。看護の道に進む卒業生に、患者さんに頑張ると口で言うより、にこっと笑顔を見せてあげることで患者は救われ元気になるよと、「和顔施」と書いてよく渡しました。

皆さんは、総じて高い学力を有し、高学歴となって高い社会的地位に就く可能性が高いです。そういう人こそ、**温かい心が備わっていない**といけない。最後に私が伝えたかったのはこのことです。それを、具体的に心に留めて貰う上で「和顔施」という言葉を皆さんに伝えました。にっこり、いい笑顔を増やせる人になりましょう。

私は以前、大規模進学校に勤めていた時に、**山崎豊子の『沈まぬ太陽』**という小説で**「ノーブレスオブリージュ」**という言葉に出会い、心に留めてきました。「ノーブレスオブリージュ」とは、身分の高い者はそれに応じて**果たさねばならぬ社会的責任と義務**があるという、欧米社会における基本的な道徳観だそうです。

今、出雲高校には**地域・社会のリーダーとして貢献できる人の育成**が求められています。だからこそ皆さんには、**「雨滴石を穿つ」ほどの「不撓の努力」を継続しつつ、「和顔施」を実践できるほどの心がしっかり育つこと**を願って、平成29年度最後の講話とします。

春休みに充電し、平成30年度も**「さあ、これからだ！」**という気概で頑張ってください。ガンバリンコ！